

平成 27 年度 第 2 回 長野市立博物館協議会 議事録

日 時 平成 27 年 11 月 20 日(金) 午後 1 時 00 分～午後 5 時 00 分
場 所 中条公民館 2 階講義室 (視察後)
出席委員 立岩会長・宮下副会長・倉石委員・相澤委員・東福寺委員・二星委員・山口委員

1 開会

2 分館・付属施設視察

大岡歴史民俗資料館 信州新町美術館・有島生馬記念館・信州新町化石博物館 中条歴史民俗資料館 視察

3 館長あいさつ

4 協議事項 (司会 立岩会長)

(1) 分館・付属施設について (視察を受けて)

(立岩会長)「視察の時間は短かったが、感じることは大切。今日感じたことを単刀直入に述べてほしい」

(山口委員)「私は転勤が多く、長野市には 5 年ほど住み、PTA 連合の副会長をしているが、これほど多く施設があることを知らなかった。来てもらえるようにしたい。」

(二星委員)「信州新町美術館・博物館は、バラエティに富んでいて楽しかった。中条と大岡は、歴史・民俗の部分で展示内容が似ているように感じた。」

(相澤委員)「信州新町は、またゆっくりみたい。入館者数は減っているものの、一万ほどか。大岡と中条は入館者数はすくない。しかし、これも地域の財産であるので、地域の人に知ってもらえるよう、PR を重視してはどうか。外に向けてと、内に向けて。『文化は人になる』というが、『人になる』のが大切だと思う。」

(東福寺委員)「市内に住んでいるが、今回の施設は初めて行った。まだ深くみれなかった。小さい施設だが、地域と密着していたと思う。今後、子どもたちがどのように感じるかが重要だと思う。先日中条の子どもたちが本館に来たが、本館の大きさに驚いていた。今日見た施設は地域密着のものだが、周辺は過疎が進んでいる。今のようにあるのではもったいない。もっと多くの人にみてもらいたい。大岡もそうだと思う。中条の化石は、戸隠などに入れて、『これは中

条のもの』ということで活用することも。信州新町は、道がよくなった。中も充実している。宣伝不足の点もあると思う。もっと皆でやれば、もっといい博物館になる。」

(倉石委員)「統廃合の検討をしているとのことだが、それぞれの博物館に地域の特色がある。地域の特色を生かして、維持できないか。市内外に対して特色をアピールして、アクセスの問題を考えてはどうか。博物館を循環するバスをだすなどしてはどうかと思う。相澤さんが『文化は人になる』とおっしゃったが、そうだと思う。人がないと郷土愛は生まれない。今日は時間がなかった。キャプションを工夫するなどしてはどうか。」

(宮下副会長)「中条や大岡は、小さな村が作ったもの。大小はあれど、作ったときの思いは同じ。今日見たら、中条・大岡・七二会などにしかないものがあった。結納の際の藁細工などは、西山地域の稲作文化を特徴づける。漆かき、漬け柿も、あるのだな、と思った。信州新町は、長野市唯一の美術館であり、大切にしなければならない。地域の経過の中でつくられたもので、その思いをどのようにするか、大切にするかだと思う。」

(立岩会長)「委員でも、今日初めてという人が多かった。『知らない』というのは問題だと思う。館としてはPRをどのように考えているか。これまでは機会があったか。」

(大蔵館長)「展覧会の際には、新聞やテレビなどに取材してもらっている。更北地区の方々にも御協力いただいている。ホームページも活用し、以前より力を入れているが、知らせる努力が必要かと思う。」

(立岩会長)「現状をPRしてもらえれば。地域の財産としての独特な文化を残してほしい。各館共通の部分もある。農具や化石。一方、独自のものもあるので、それをどのようにするか、残し、生かすかだと思う。」

(倉石委員)「付け加えでよいか。養蚕が多くあり、山繭が展示にあった。驚いた。山蚕があったということだ。それを掘り起こすのも重要だと思う。これは学芸員にかかわることであるが、お願いしたい。」

(立岩会長)「こういった意見を参考にして統廃合を進めてもらえればと思う。」

(相澤委員)「信州新町の小学校で箱膳をやったことから、そこにしかないものを整理していつてはどうかと思った。現存しているものを大切にすれば、今、年配の方はそういうものが好きである。魅力を発信していくには、色々やり方があると思う。」

(立岩委員)「文化の独自の部分をどう生かしていくか、というのが、皆の意見だと思う。」

5 閉会